

BizBox Switch 「SWX2300-24G」

Rev.2.00.14 (メーカーRev.2.00.13含む)

ファームウェアリリースノート

以下のとおり機能追加・仕様変更・機能改善が行われました。

---

○SWX2300 Rev.2.00.10 からの変更点

---

#### ■機能追加

[1] IEEE802.1X認証機能、MAC認証機能に対応した。

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/SW/docs/swx2300/Rev\\_2\\_00\\_13/LAN\\_SFP/auth.html?  
rev=2.00.13&category=port](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/SW/docs/swx2300/Rev_2_00_13/LAN_SFP/auth.html?rev=2.00.13&category=port)

[2] SNMP機能で、プライベートMIBに対応した。

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/SW/docs/swx2300/Rev\\_2\\_00\\_13/network\\_monitor/SNMP.html?  
rev=2.00.13&category=monitor](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/SW/docs/swx2300/Rev_2_00_13/network_monitor/SNMP.html?rev=2.00.13&category=monitor)

また、以下のコマンドでL2MSとErrorDisableのトラップを指定できるようにした。

- snmp-server enable trap (送信する通知メッセージタイプの設定)

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref\\_2\\_00\\_13/monitoring/snmp/snmp-  
server\\_enable\\_trap.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref_2_00_13/monitoring/snmp/snmp-server_enable_trap.html)

[3] L2MSスレーブとして動作しているとき、以下のL2MSマスターからCONFIGの保存/復元/削除を行えるようにした。

- SWX2310P (Rev.2.02.06以降)
- SWX3100 (Rev.4.01.05以降)
- SWX3200 (Rev.4.00.05以降)

[4] プロセスの状態を表示するコマンドを追加した。

- show process

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref/maintenance/productinfo/show\\_process.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref/maintenance/productinfo/show_process.html)

## ■仕様変更

[1] LANマップで、スレーブとして以下の機種に対応した。

- WLX402
- SWX2100-5PoE
- SWX2100-10PoE
- SWX2100-24G

[2] LANマップで、SFP受光レベル監視、送信キュー使用率監視に対応した。

- ・以下のコマンドを追加した。
  - event-watch disable (イベント監視機能の設定)
  - event-watch interval (イベント情報の取得時間間隔の設定)

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref\\_2\\_00\\_13/maintenance/l2ms/l2ms\\_concept.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref_2_00_13/maintenance/l2ms/l2ms_concept.html)

[3] L2MSで、スレーブのSWX2200シリーズに対して以下の操作をできるようにした。

- Web GUIからコンフィグのバックアップ・リストアをできるようにした。
- 以下のコマンドでコンフィグ情報を表示できるようにした。
  - show l2ms slave-config (L2MSのスレーブコンフィグ情報の表示)

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref\\_2\\_00\\_13/maintenance/l2ms/show\\_l2ms\\_slave-config.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref_2_00_13/maintenance/l2ms/show_l2ms_slave-config.html)

[4] switchport trunk native vlan noneコマンドが設定されているトランクポートでも、L2MS機能が動作するようになった。

[5] TELNETで接続するクライアント端末をIPv4/IPv6アドレスで制限できるようにした。

- 以下のコマンドを追加した。
  - telnet-server access(TELNETサーバーへアクセスできるクライアントのIPアドレス制限)

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref\\_2\\_00\\_13/remote/telnet\\_server/telnet-server\\_access.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref_2_00_13/remote/telnet_server/telnet-server_access.html)

- 以下のコマンドでtelnet-server/パラメーターを指定できるようにした。
  - show running-config (ランニングコンフィグの表示)

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref\\_2\\_00\\_13/maintenance/config/show\\_running-config.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref_2_00_13/maintenance/config/show_running-config.html)

- 以下のコマンドの表示内容を変更した。

- show telnet-server (TELNETサーバーの設定状態の表示)

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref\\_2\\_00\\_13/remote/telnet\\_server/show\\_telnet-server.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref_2_00_13/remote/telnet_server/show_telnet-server.html)

[6] フレームカウンターの表示で、送信ドロップ数のカウントに対応した。

[7] logging hostコマンドで、SYSLOGサーバーを2つまで指定できるようにした。

- logging host (ログの通知先の設定)

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref\\_2\\_00\\_13/maintenance/syslog/logging\\_host.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref_2_00_13/maintenance/syslog/logging_host.html)

[8] Web GUIからログイン/ログアウトしたとき、ログを出力するようにした。

[9] YNOのGUI Forwarder経由でWeb GUIを表示できるようにした。

[10] show processコマンドの実行結果をshow tech-supportに追加した。

[11] システム全体のフロー制御が有効なとき、以下のコマンドで受信バッファ溢れしたパケット数を表示するようにした。

- show framecounter

- show interface

[12] システム全体のフロー制御を設定するコマンドを追加した。システム全体のフロー制御が有効かつ、インターフェースのフロー制御が有効な場合のみフロー制御が動作する。

- flowcontrol enable

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref/traffic/flowcontrol/flowcontrol\\_enable\\_sys.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/manual/swx2300/cmdref/traffic/flowcontrol/flowcontrol_enable_sys.html)

#### ※注意事項

- 以前のファームウェアでフロー制御を利用されていた場合、上記コマンドでシステム全体のフロー制御を有効にする必要があります。

[13] LACPを用いたリンクアグリゲーションで、LACPパケット送信時のソースMACアドレスを、ローカルMACアドレスに変更した。

#### ※注意事項

- Rev.2.00.13以前のSWX2300では、本バージョン以降のSWX2300とLACPを用いたリンクアグリゲーションを正しく組む事ができなくなります。
- Rev.2.00.13以前のSWX2300では、SWX3200、SWX3100、およびSWX2310PとLACPを用いたリンクアグリゲーションを正しく組む事ができません。

[14] Web GUIのLANマップとダッシュボードで、受信ドロップカウンターを表示するようにした。

[15] Web GUIの詳細設定の[QoS]で、フロー制御機能が有効な場合はQoSの設定を有効にできないようにした。

[16] Web GUIの詳細設定の[メール通知]の以下のページで、設定フォームのタイトルを変更した。

- メールサーバーの設定
- メール通知の設定

#### ■バグ修正

[1] LANマップからHTTPプロキシを用いてスレーブのWeb GUIを表示しているとき、以下のバグを修正

した。

- L2MSのコントローラーを再起動すると、起動後にリポートする。
- L2MSのコントローラーとスレーブ間が通信不可になると、コントローラー側でメモリーリークが発生することがある。

[2] LANマップで、端末監視機能を有効にしたときに、リンクアップイベントかGUIの取得ボタンが押されない限り、L2MSコントローラー直下の端末情報が取得されないバグを修正した。

Rev.2.00.10のみで発生する。

[3] LANマップで、端末監視機能を有効にしても無線アクセスポイントに接続した端末が検出されないことがあるバグを修正した。

[4] LANマップからL2MSスレーブのSWX2200シリーズのポートミラーリング機能設定に失敗したとき、不正なエラーメッセージが表示されるバグを修正した。

[5] LANマップの機器一覧で、以下のバグを修正した。

- 端末一覧とスレーブ一覧の表示が経路順でソートされない。
- SWX2100シリーズの種類が"ヤマハスイッチ"と表示されない。

[6] L2MSスレーブとして動作しているとき、以下のバグを修正した。

- コントローラーからswitch control function get boot-rom-versionが実行されると、コマンドの実行結果がエラーとなる。
- コントローラーからswitch control function get status-loopdetect-portが実行されると、ループの発生によってポートがshutdownしていてもnormalと表示される。
- コントローラーがL2MS機能を終了した後に再度L2MS機能を動作させると、自機以下に接続されているスレーブがコントローラーに認識されない。

[7] Web GUIの[管理]-[SYSLOGの管理]-[SYSLOGの設定]ページで、宛先アドレスの入力を省略できない

バグを修正した。

Rev.2.00.10のみで発生する。

[8] Web GUIのダッシュボードで、SFPポートの動作モードが正しく表示されないことがあるバグを修正した。

[9] MLDスヌーピング機能で、不正なIPv6パケットを受信すると、CPU使用率が100%になり続けることがあるバグを修正した。

[10] IGMP/MLDスヌーピング機能で、非クエリアーとして動作していても、自機からクエリーを送信し続けてしまうことがあるバグを修正した。

[11] DHCPでIPv4アドレスを取得した後にIPv6のRA設定を行うと、DHCPで取得したデフォルトゲートウェイ情報が消えてしまうバグを修正した。

[12] デフォルトルートや、同じサブネットに対するルーティング設定が複数できるバグを修正した。

[13] SNMPビュー設定で、本来MIBを取得できないOIDを1番目に管理対象として設定すると、SNMPv3で当該MIBオブジェクトが取得できてしまうバグを修正した。

[14] SNMPでinform通知が設定されているとき、リンクダウンやリンクアップにより動作が不安定になることがあるバグを修正した。

[15] フロー制御機能で、以下のバグを修正した。

- Pauseフレームが送信されないことがある。
- フロー制御のオートネゴシエーションが効かないことがある。

この修正により、flow control enableコマンドを実行したとき、該当ポートが一度リンクダウン/アップするようになる。

[16] clock setコマンドで日時を設定すると、時刻が正しく変更されないことがあるバグを修正した。

[17] 電源投入により起動したとき、起動理由が"unknown condition"になることがあるバグを修正した。

[18] メモリ使用率の算出方法に誤りがあり、実使用率より高く表示されるバグを修正した。

この修正により、メモリ使用率は従来より15%程度低く表示される。

[19] Web GUIのヘルプの誤記を修正した。

[20] プライベートVLANを設定するとリブートすることがあるバグを修正した。

[21] MLDスヌーピングで、RAオプションがないMLDパケットを受信するとリブートするバグを修正した。

[22] 機器全体の送信キューの使用率が高くなると、機器全体の通信レートが落ちるバグを修正した。

※この修正により、以下の制限が修正されます。

「全送信ポートを合わせて、同時に4つ以上の送信キューが使用率100%になると、全体の通信レートが落ちるといった現象が発生します。」

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/SW/docs/swx2300/Rev\\_2\\_00\\_13/traffic/QoS.html?](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/SW/docs/swx2300/Rev_2_00_13/traffic/QoS.html?rev=2.00.13&category=traffic#6-%E6%B3%A8%E6%84%8F%E4%BA%8B%E9%A0%85)

[rev=2.00.13&category=traffic#6-%E6%B3%A8%E6%84%8F%E4%BA%8B%E9%A0%85](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/SW/docs/swx2300/Rev_2_00_13/traffic/QoS.html?rev=2.00.13&category=traffic#6-%E6%B3%A8%E6%84%8F%E4%BA%8B%E9%A0%85)

[23] リンクアグリゲーションの論理インターフェースで、MLDスヌーピング、またはIGMPスヌーピングが有効な場合、マルチキャスト通信ができないことがあるバグを修正した。

[24] SNMPのトラップが送信されないことがあるバグを修正した。

[25] snmp-server enable trapコマンドで、l2ms、およびerrdisableを設定してもプライベートMIBの値に

反映されないバグを修正した。

[26] show l2ms detailコマンドを実行すると、消失した端末が表示されるバグを修正した。

[27] mac-address-table staticコマンドで、プライベートVLANのセカンダリーポートにプライマリーVLAN IDを指定できないバグを修正した。

[28] ループ検知機能で使用するLDFを転送するとき、予約領域を不正に書き換えてしまうバグを修正した。本バグにより、他機種でループ検知機能が動作しないことがあった。

[29] LACPを用いたリンクアグリゲーションを使用しているとき、スパニングツリーを有効にするとPingを送信できないことがあるバグを修正した。

[30] スパニングツリーが無効なとき、ポートがリンクダウンしても当該ポートのFDBがクリアされないバグを修正した。

[31] LANポートのリンク状態が正しく認識できなくなる可能性を排除した。

[32] LACPを用いたリンクアグリゲーションを他機種との間で使用するとき、論理インターフェースのモードをswitchport modeコマンドで変更すると、一部のLANポートでLACPがSync状態にならず、通信できないことがあるバグを修正した。

[33] リンクアグリゲーションで論理インターフェースを作成するとき、所属するLAN/SFPポートのモードの設定が論理インターフェースに適用されないバグを修正した。

[34] リンクアグリゲーションで論理インターフェースのポートのモードを変更したとき、所属するLAN/SFPポートのモードの設定が変更されないバグを修正した。

Rev.2.00.13で発生する。

[35] ポート認証で、radius-server hostコマンド設定後にSWX2300のIPアドレスが変わると、認証できなくなるバグを修正した。

[36] Web GUIのLANマップで以下のバグを修正した。

- スナップショットが無効なときにsnapshot trap deviceコマンドを実行し、その後スナップショットを有効にしても端末がスナップショットの対象にならない
- [機器一覧]-[端末マスター]の機器情報編集ページで、以下の現象が発生する
  - 機器マスターの編集ダイアログに設定済みの"種類"が反映されない
  - 機器情報の編集ダイアログで、サニタイズされた文字列が表示される
- HTTPプロキシ経由でL2MSスレーブを開いたとき、ダッシュボードのガジェットを分離してもダッシュボード本体側で「画面分離中です」と表示されない

[37] Web GUIの詳細設定の[タグVLAN]でヘルプの誤記を修正した。

---